



M-TEP (C:チーム研修型) 中学校数学部会授業研究会 令和7年11月6日(木)

指導課通信第3号にてお知らせしたように、「確かな学力育成支援(M-TEP)C:チーム研修型」を実施しています。中学校数学部会は、日新中学校 八田 直先生、萩野学園 小屋 彩香先生、最上中学校 五十嵐 一暁先生の3名がチームとして授業づくり(単元・評価検討会、指導案検討会)を行い、11月6日に新庄市立日新中学校を会場に、授業研究会を実施しました。当日は山形県教育センター指導主事の芳賀 司先生より授業への指導・助言をいただくとともに、「生きて働く知識・技能の定着を目指した数学科の授業」について、講義していただきました。

芳賀先生より

- 思考力・判断力・表現力を育成する時間においては、なぜそう思ったのか理由を丁寧に扱うこと。⇒図形間の関係に目が向くようになる。
- 「問題を解くことができるか」だけでなく、意味理解を確かめる問いを行う。⇒「わかったつもり」をなくす。
- 評価規準をもとに、Cの子をBに引き上げる手立てを具体的にイメージする。⇒「わからないまま」にしない。



～参加された先生方の声～

- 授業者の思いが詰まった授業で、生徒の反応も良く、根気強く取り組んでいて、本時で身に付けさせたい力を明確にすることの大切さを改めて実感できました。
- 適用問題では、生徒がもっと解きたいという思いで黙々と解き進める様子が見られました。この姿がとても素敵でした。
- これまでの研修から本時に至るまで、必要感というテーマを重視して授業を組み立ててみて、いろいろなアイデアを出しながら前向きに考えることができ、とても有意義な時間になったと思います。

中高教員相互派遣研修(中学・英語) 公開授業研究会 令和7年11月27日(木)

今年度も中高を通じた外国語(英語)の教科指導の在り方について研究・協議し、授業改善及び生徒の学力向上を図る目的で、戸沢学園を会場に公開授業研究会を開催しました。授業者の大場祐介先生は、単元のゴールとして、台湾の中学生との対面交流における村や学園を紹介するプレゼンテーションを設定しました。本時でも「相手に分かりやすく、興味をもってもらえるようにまとめる」という目的を明確にした言語活動が行われていました。

また、当日は山形県教育局義務教育課の今野 怜指導主事より、授業への指導・助言をいただきました。授業における生徒の姿や中間指導について価値づけいただくとともに、今後に向けた具体的な提案をしていただいたことで、教科指導の方向性について参加者が焦点化を図ることができました。

今野 指導主事より

本単元の「書くこと」の目的である「台湾の中学生に、交流で行う体験内容について興味を持ってもらえるよう」を達成するために、「簡単な語句や文」で表現するように指導を工夫することが効果的。

→既得表現やパラフレーズを生かしてどのように表現できるか見通しておくと、授業の中で何を指導して、見取る(評価する)かが見えてくる。



～参加者の感想～

- 生徒が意欲的に言語活動に取り組むことができるように、生徒の実態から目標を設定し、その目標を達成するための「目的・場面・状況」を明確にして、生徒と共有することに挑戦したい。
- 教師が意図をもって待ち、生徒の声に基づいた中間指導を行うことに課題を感じているが、それこそが深い学びの鍵となると思う。

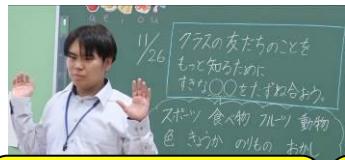
第4回初任者研修授業研究会 令和7年11月26日(水)

日新小学校と日新中学校を会場に今年度最後の校外における研修となる授業研究会を行いました。これまでの研修や経験を生かした教材研究を行い、授業のねらいを明確にした授業が展開されました。事後研究協議では、「まとめ・振り返りの充実に向けて」という視点で、授業中に見取った児童生徒の良さとそれを引き出した教師の手立てについて、活発な協議が行われました。また、初任者としての1年を振り返る場では、日頃から支えてくださっている方々への感謝や、教師としてさらに成長していきたいという思いが語られました。校外における研修は最後となりましたが、初任者の皆さんが今後も教師として学び続けられ、御活躍されることを期待しています。

授業の様子



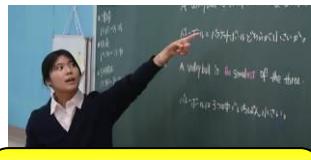
伊藤 瑞音 教諭 (日新小)
1年道徳 (A 個性の伸長)
「ぼくのこと きみのこと」



長倉 拓夢 教諭 (日新小)
3年外国語活動
「What do you like?」



阿部 まこ 教諭 (日新中)
2年国語
「モアイは語る－地球の未来－」



池田 祥子 教諭 (日新中)
2年外国語
「How can we make a good presentation?」

- ・単発の振り返りではなく、各自がこれまでの学びや、できることできなかったことを振り返る時間を確保していくべきだと感じた。振り返りが「できた」「できなかった」でとどまらないような終末にしていきたい。
- ・「まとめ・振り返りの充実」の視点で研究協議を行い、これまで私が実践してきた振り返りは、子どもたちのためのものになっていたか、ふりかえりを授業改善に十分に生かさせていたかを考えるきっかけとなった。

★振り返りアンケートより★



協議の様子



初任者としての1年を振り返る

M-TEP A: 若手育成型

日時	学校名	氏名	支援の内容	主体的に学ぶ研修者の様子
9月5日	新庄中学校	遠藤 陽太 教諭	教職5年経験者研修の授業研究会(2年学級活動)に係る指導案検討	議題設定のポイントや合意形成のプロセスを確認しながら、学級の実態に応じた手立てを考える様子が見られました。
9月19日	真室川中学校	伊藤 謙伸 教諭	学校経営計画指導訪問に係る指導案検討(2年国語 徒然草)	つけたい資質・能力に沿った課題設定の工夫や、個に応じた支援について具体的に検討する様子が見られました。
10月27日	日新小学校	田中 李奈 教諭 ハ鍼 芽依 教諭 姉崎 叶恵 教諭 井上 拓郎 助教諭 高橋 音々 教諭 柿崎 裕太 教諭 井上 航汰 教諭	授業を充実させるための日常的な工夫について(部会ごと) ○2年算数、3年算数 ○4年外国語活動、4年算数 ○1・2年道徳、5・6年国語 ○5年道徳	前段の授業通覧では、7月の第1回研修を受けて、2学期に意識したいことを授業の中で提案していただきました。後段の部会別研修では、11月以降に取り組みたいことを、研修者同士が対話を通じて気づいていく姿が見られました。

※M-TEPについては随时申し込みいただけます。支援内容については御相談ください。